

大宮小学校の統合に関する基本方針（案）

令和5年9月
龍ヶ崎市教育委員会

目 次

1	背景及び趣旨	1
2	児童数の推移及び将来推計について	1
	(1) 大宮小学校の児童数の推移	1
	(2) 大宮小学校の児童数の将来推計	2
	(3) 大宮小学校が龍ヶ崎小学校と統合した場合の児童数の将来推計	3
	(4) 龍ヶ崎中学校区内の小学校（龍ヶ崎小学校、大宮小学校、龍ヶ崎西小学校）が統合した場合の児童数の将来推計	4
3	公立・小中学校の適正規模に関する基準等について	5
	(1) 国の基準	5
	(2) 茨城県の基準	6
	(3) 龍ヶ崎市の基準	6
4	小規模校のメリット・デメリットについて	6
5	小規模校の課題及び統合の効果について	8
	(1) 小規模校の課題	8
	(2) 統合の効果について	10
6	統合後の児童・保護者へのアンケート結果について	11
7	通学区域の状況について	20
	(1) 通学区域	20
	(2) 通学距離	20
8	教職員の配置基準について	23
	(1) 教職員の配置基準	23
	(2) 大宮小学校の教職員配置	23
	(3) 龍ヶ崎小学校と統合した場合の教職員の配置	24
9	学校施設の現状について	24
	(1) 大宮小学校	24
	(2) 龍ヶ崎小学校	25
10	学校跡地利用の可能性について	25
11	大宮小学校の統合に向けた検討に係るヒアリングについて	26
	(1) ヒアリング実施団体	26
	(2) 主な意見	26
12	大宮小学校の統合について	29
13	統合に向けたスケジュール	30

1 背景及び趣旨

龍ヶ崎市教育委員会では、平成 23 年 5 月に「龍ヶ崎市立小中学校適正規模適正配置に関する基本方針」を策定し、理想的な小学校の規模について、「各学年ともにクラス替えによる交流が図られるよう 1 学年 2 学級（計 12 学級）以上」と定めています。また、平成 30 年 3 月に「龍ヶ崎市の新しい学校づくりに関する基本方針」を定め、中学校区を基本とした小中一貫教育（龍の子人づくり学習）に取り組んでおります。

令和 5 年度において、大宮小学校の学級数は、通常の学級が 6 学級、特別支援学級が 3 学級、合計 9 学級（児童数は 72 名）となっており、理想的な学校規模にない状況となっています。

大宮小学校においては、今後も児童数が減少する見込みとなっており、現状を放置すると、児童のための充実した教育環境を維持できなくなるおそれがあります。

今後、小学校における教育の質を上げていくためには、一定以上の学校規模にしていく必要があることから、教育委員会ではこれまでに PTA 役員や地域団体代表の方々と大宮小学校の統合について意見交換を重ねてきたところです。

令和 2 年の年明けから新型コロナウイルス感染症が流行したため、話し合いは一時中断しておりましたが、その間も、大宮小学校の児童数は減少を続けており、統合について、具体的に考えなければならない時期となりました。

2 児童数の推移及び将来推計について

(1) 大宮小学校の児童数の推移

昭和 50 年代後半まで、児童数は増加の一途をたどり、昭和 57 年（1982 年）度は児童数 404 人、学級数 12 学級となりました。

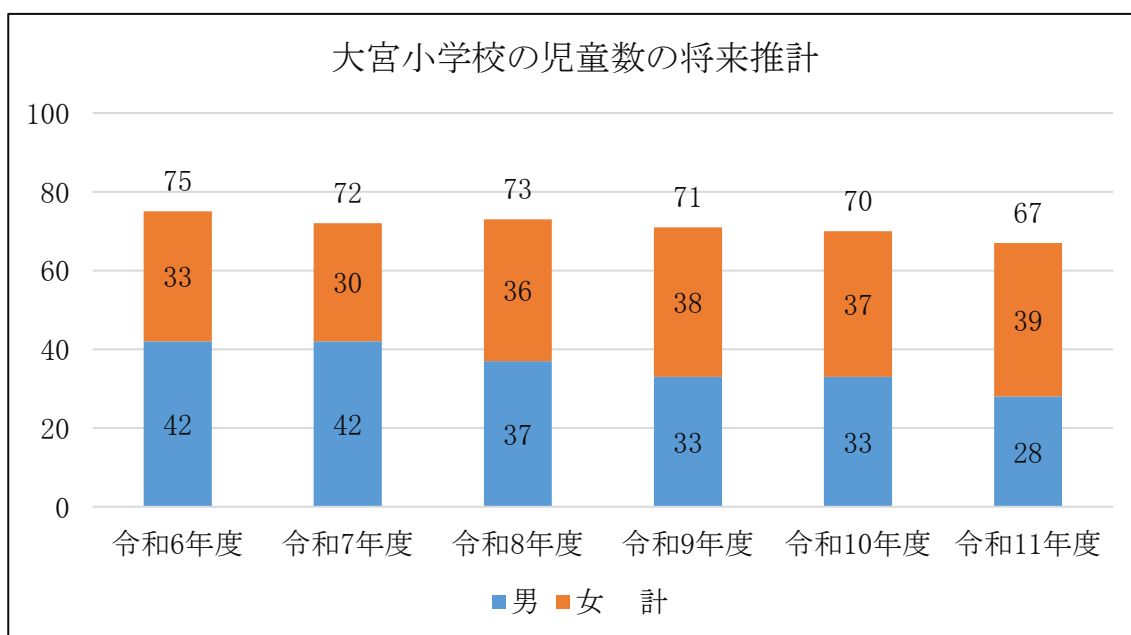
その後、多少の増減はあるものの、児童数は減少を続け、平成元年（1989 年）度には児童数 306 人、平成 11 年（1999 年）度には児童数 217 人、平成 21 年（2009 年）度には 161 人、令和元年（2019 年）度には 99 人となり、令和 5 年（2023 年）度は、72 人となっております。これは、平成 11 年度と比較すると、66.8%の減少となっています。

区分	H11 年度	H25 年度	R 元年度	R5 年度	減少率 (H11 比)
児童数	217 人	133 人	99 人	72 人	-66.8%
通常学級数	6 学級	6 学級	6 学級	6 学級	—

※詳細は、資料 1 参照

(2) 大宮小学校の児童数の将来推計

令和11年（2029年）度までの大宮小学校の児童数について、住民基本台帳の年齢別人口に、指定校変更等による増減を加味して推計した結果を下記に示しています。令和6年度以降、多少の増減はあるものの児童数は減少し、令和11年度には、67人になる見込みです。また、令和5年度中の出生者数によっては、今後、複式学級になることも考えられます。



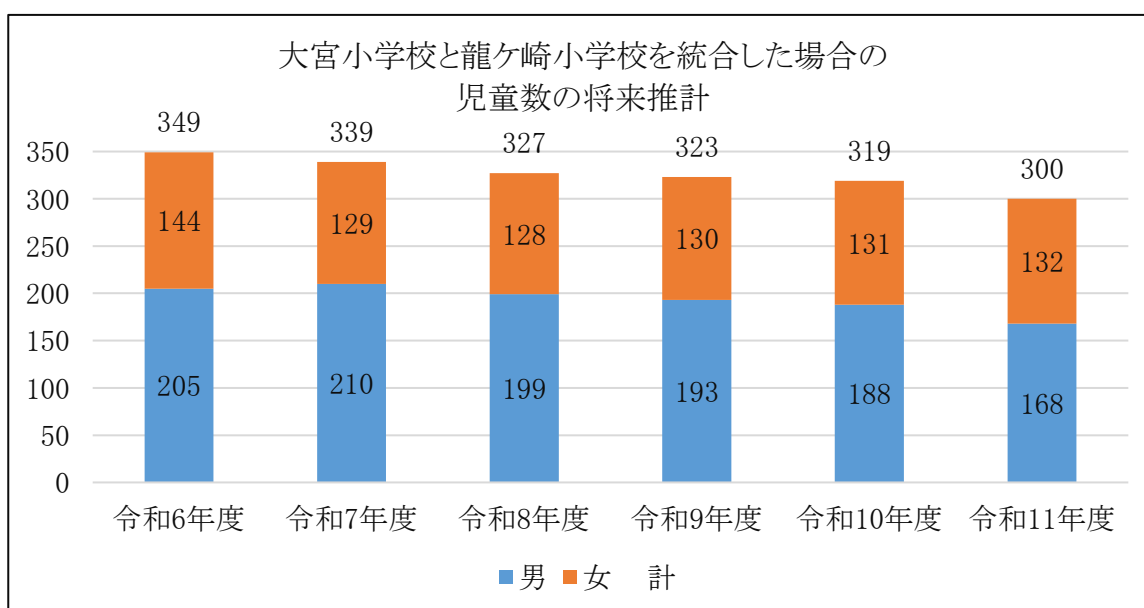
大宮小学校の児童数の将来推計（学年別・男女別）

年度	児童数						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
R6	(1) 16	(1) 10	(1) 11	(1) 11	(1) 13	(1) 14	(6) 75
	7 9	5 5	5 6	6 5	11 2	8 6	42 33
R7	(1) 11	(1) 16	(1) 10	(1) 11	(1) 11	(1) 13	(6) 72
	8 3	7 9	5 5	5 6	6 5	11 2	42 30
R8	(1) 14	(1) 11	(1) 16	(1) 10	(1) 11	(1) 11	(6) 73
	6 8	8 3	7 9	5 5	5 6	6 5	37 36
R9	(1) 9	(1) 14	(1) 11	(1) 16	(1) 10	(1) 11	(6) 71
	2 7	6 8	8 3	7 9	5 5	5 6	33 38
R10	(1) 10	(1) 9	(1) 14	(1) 11	(1) 16	(1) 10	(6) 70
	5 5	2 7	6 8	8 3	7 9	5 5	33 37
R11	(1) 7	(1) 10	(1) 9	(1) 14	(1) 11	(1) 16	(6) 67
	0 7	5 5	2 7	6 8	8 3	7 9	28 39

(3) 大宮小学校が龍ヶ崎小学校と統合した場合の児童数の将来推計

大宮小学校が龍ヶ崎小学校と統合したと仮定した場合、令和11年度までの児童数の推計を下記に示しています。

令和11年度の推計値では、児童数が300人となり、すべての学年で2学級となる見込みであることから、龍ヶ崎市立小学校の適正規模の基準を満たす規模となっています。

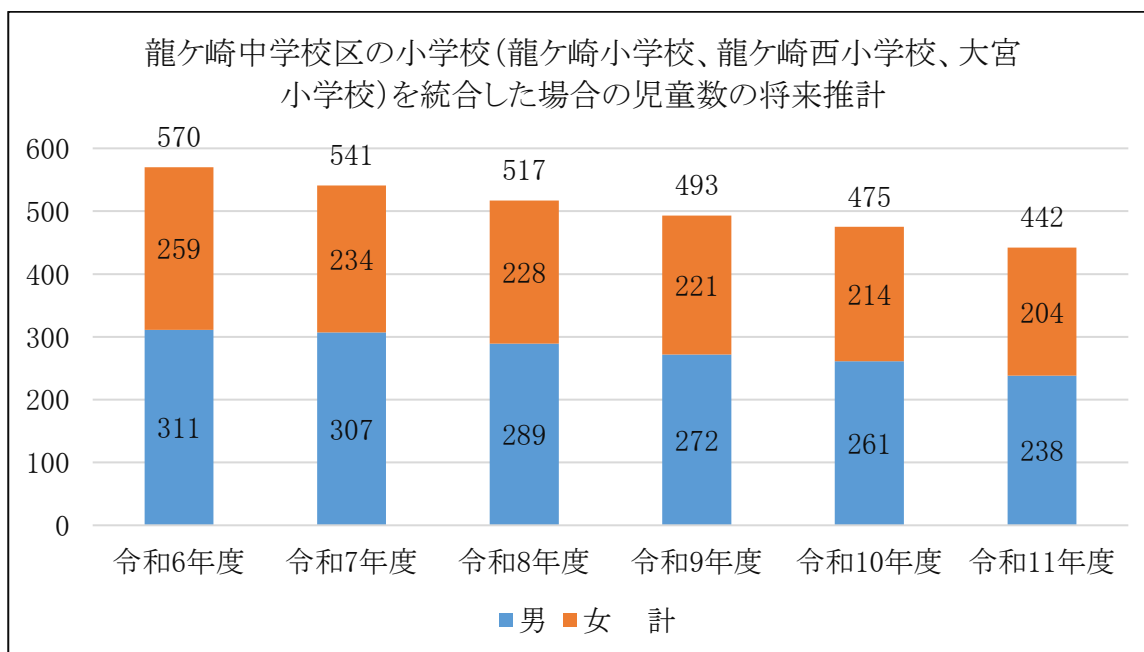


大宮小学校と龍ヶ崎小学校を統合した場合の将来推計（学年別・男女別）

年度	児童数												計	
	1年		2年		3年		4年		5年		6年			
R6	(2)	61	(2)	55	(2)	51	(2)	51	(2)	62	(2)	69	(12)	349
	38	23	34	21	28	23	29	22	39	23	37	32	205	144
R7	(2)	59	(2)	61	(2)	55	(2)	51	(2)	51	(2)	62	(12)	339
	42	17	38	23	34	21	28	23	29	22	39	23	210	129
R8	(2)	50	(2)	59	(2)	61	(2)	55	(2)	51	(2)	51	(12)	327
	28	22	42	17	38	23	34	21	28	23	29	22	199	128
R9	(2)	47	(2)	50	(2)	59	(2)	61	(2)	55	(2)	51	(12)	323
	23	24	28	22	42	17	38	23	34	21	28	23	193	130
R10	(2)	47	(2)	47	(2)	50	(2)	59	(2)	61	(2)	55	(12)	319
	23	24	23	24	28	22	42	17	38	23	34	21	188	131
R11	(2)	36	(2)	47	(2)	47	(2)	50	(2)	59	(2)	61	(12)	300
	14	22	23	24	23	24	28	22	42	17	38	23	168	132

(4) 龍ヶ崎中学校区内の小学校（龍ヶ崎小学校、大宮小学校、龍ヶ崎西小学校）
が統合した場合の児童数の将来推計

龍ヶ崎市では、中学校区単位で小中一貫教育を進めており、将来的には小中一貫校の開校を目指していることから、3校を統合した場合の推計を示しています。令和9年度には、児童数が500人を割り、2学級の学年が生じます。



龍ヶ崎中学校区の小学校を統合した場合の合計児童数の将来推計(学年別・男女別)

年度	児童数						計	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
R6	(3) 93	(3) 86	(3) 91	(3) 88	(3) 102	(3) 110	(18)	570
	54 39	47 39	46 45	48 40	59 43	57 53	311	259
R7	(3) 81	(3) 93	(3) 86	(3) 91	(3) 88	(3) 102	(18)	541
	53 28	54 39	47 39	46 45	48 40	59 43	307	234
R8	(3) 78	(3) 81	(3) 93	(3) 86	(3) 91	(3) 88	(18)	517
	41 37	53 28	54 39	47 39	46 45	48 40	289	228
R9	(2) 64	(3) 78	(3) 81	(3) 93	(3) 86	(3) 91	(17)	493
	31 33	41 37	53 28	54 39	47 39	46 45	272	221
R10	(3) 73	(2) 64	(3) 78	(3) 81	(3) 93	(3) 86	(17)	475
	35 38	31 33	41 37	53 28	54 39	47 39	261	214
R11	(2) 53	(3) 73	(2) 64	(3) 78	(3) 81	(3) 93	(16)	442
	24 29	35 38	31 33	41 37	53 28	54 39	238	204

※推計は、令和5年5月1日時点の児童数及び入学予定者数による。

※各年度の上段()は学級数、右の数字は児童数、下段の青枠は男子、赤枠は女子

※特別支援学級在籍児童数を含む(令和6年度入学以降はすべて通常学級で見込む)。

※令和6年度から第5学年 35 人学級、令和7年度から第6学年 35 人学級とする。

3 公立・小中学校の適正規模に関する基準等について

公立の小中学校に係る適正規模に関する国、茨城県及び本市における基準等は、次のとおりとなっています。

(1) 国の基準

○学校教育法施行規則（昭和 22 年文部省令第 11 号）

第 41 条 小学校の学級数は、12 学級以上 18 学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。

○義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律(昭和 33 年法律第 81 号)

(国の負担)

第 3 条 国は、政令で定める限度において、次の各号に掲げる経費について、その一部を負担する。この場合において、その負担割合は、それぞれ当該各号に定める割合によるものとする。

- (4) 公立の小学校、中学校及び義務教育学校を適正な規模にするため統合しようとするに伴って必要となり、又は統合したことに伴って必要となった校舎又は屋内運動場の新築又は増築に要する経費 2 分の 1
- 2 前項第 1 号の教室の不足の範囲及び同項第 4 号の適正な規模の条件は、政令で定める。

○義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令（昭和 33 年政令第 189 号）

(適正な規模の条件)

第 4 条 法第 3 条第 1 項第 4 号の適正な規模の条件は、次に掲げるものとする。

- (1) 学級数が、小学校及び中学校にあってはおおむね 12 学級から 18 学級まで、義務教育学校にあってはおおむね 18 学級から 27 学級までであること。
- (2) 通学距離が、小学校にあってはおおむね 4 キロメートル以内、中学校及び義務教育学校にあってはおおむね 6 キロメートル以内であること。
- 3 統合後の学校の学級数又は通学距離が第 1 項第 1 号又は第 2 号に掲げ

る条件に適合しない場合においても、文部科学大臣が教育効果、交通の便その他の事情を考慮して適当と認めるときは、当該学級数又は通学距離は、同項第1号又は第2号に掲げる条件に適合するものとみなす。

(2) 茨城県の基準

○公立小・中学校の適正規模について（指針）（平成20年4月茨城県教育委員会策定）

【小・中学校の適正規模の基準】

小学校・・クラス替えが可能である各学年2学級以上となる 12学級以上が望ましい。

中学校・・クラス替えが可能で全ての教科の担任が配置できる 9学級以上が望ましい。（国語・社会・数学・理科・英語に複数の教員の配置が可能）

(3) 龍ヶ崎市の基準

○龍ヶ崎市立小中学校適正規模適正配置に関する基本方針（平成23年5月龍ヶ崎市教育委員会策定）

【小中学校の適正規模について】

小学校・・各学年ともにクラス替えによる交流が図られるよう 1学年2学級（計12学級）以上とする。

中学校・・全ての教科の担任が配置でき、かつ、多様な教育活動が展開できるよう 1学年3学級（計9学級）以上とする。

4 小規模校のメリット・デメリットについて

文部科学省では、小規模校のメリット・デメリットについて、以下のように整理しています。

区分	メリット	デメリット
学習面	○児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 ○学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個	○集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ○1学年1学級の場合、ともに努力してよりよい集団を目指す、学級

	別の活動機会を設定しやすい。	<p>間の相互啓発がなされにくい。</p> <p>○運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。</p> <p>○中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。</p> <p>○児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態をとりにくい。</p> <p>○部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。</p>
生活面	<p>○児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。</p> <p>○異学年間の縦の交流が生まれやすい。</p> <p>○児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。</p>	<p>○クラス替えが困難なことなどから人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。</p> <p>○集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。</p> <p>○切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。</p> <p>○組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。</p>
学校運営面	<p>○全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。</p> <p>○学校が一体となって活動しやすい。</p> <p>○施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。</p>	<p>○教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。</p> <p>○学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい。</p> <p>○一人に複数の校務分掌が集中しやすい。</p> <p>○教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。</p>
その他	○保護者や地域社会との連携	○PTA活動等における保護者一

	<p>が図りやすい。 ○災害発生等による緊急避難時に混雑が生じにくい。</p>	<p>人あたりの負担が大きくなりやすい。</p>
--	---	--------------------------

出典：文部科学省 中央教育審議会の初等中等教育分科会の小・中学校の設置・運営の在り方に関する作業部会資料（H20.12.2）より抜粋

5 小規模校の課題及び統合の効果について

(1) 小規模校の課題

平成 27 年 1 月に文部科学省が策定した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」（以下「適正規模・適正配置等手引」といいます。）においては、小規模校の課題を次のとおり整理しています。

ア 学級数が少ないことによる学校運営上の課題

一般に学級数が少ない学校においては、児童生徒数や教職員数が少なくなることによる影響も含め、下記のような学校運営上の課題が生じる可能性があります。

- (ア) クラス替えが全部又は一部の学年でできない。
- (イ) クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない。
- (ウ) 加配なしには、習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい。
- (エ) クラブ活動や部活動の種類が限定される。
- (オ) 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる。
- (カ) 男女比の偏りが生じやすい。
- (キ) 上級生・下級生間のコミュニケーションが少なくなる、学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる。
- (ク) 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。
- (ケ) 班活動やグループ分けに制約が生じる。
- (コ) 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる。
- (サ) 教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる。
- (シ) 生徒指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける。
- (ス) 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる。
- (セ) 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる。

イ 教職員数が少なくなることによる学校運営上の課題

小中学校共通して、学級数が少なくなるに従い、配置される教職員数が少なくなるため、次のような問題が顕在化し、結果として教育活動に大きな制約が生じるおそれがあるとしています。

- (ア) 経験年数、専門性、男女比等バランスのとれた教職員配置やそれらを生かした指導の充実が困難となる。
- (イ) 教員個人の力量への依存度が高まり、教育活動が人事異動に過度に左右されたり、教員数が毎年変動することにより、学校経営が不安定になったりする可能性がある。
- (ウ) 児童生徒の良さが多面的に評価されにくくなる可能性がある、多様な価値観に触れさせることが困難となる。
- (エ) ティーム・ティーチング、グループ別指導、習熟度別指導、専科指導等の多様な指導方法をとることが困難となる。
- (オ) 教職員一人当たりの校務負担や行事に関わる負担が重く、校内研修の時間が十分確保できない。
- (カ) 学年によって学級数や学級当たりの人数が大きく異なる場合、教員間に負担の大きな不均衡が生じる。
- (キ) 平日の校外研修や他校で行われる研究協議会等に参加することが困難となる。
- (ク) 教員同士が切磋琢磨する環境を作りやすく、指導技術の相互伝達がなされにくい（学年会や教科会等が成立しない）。
- (ケ) 学校が直面する様々な課題に組織的に対応することが困難な場合がある。
- (コ) 免許外指導の教科が生まれる可能性がある。
- (サ) クラブ活動や部活動の指導者確保が困難となる。

ウ 学校運営上の課題が児童生徒に与える影響

上記のような学校運営上の課題が生じた場合、児童生徒には次のような影響を与える可能性があるとしています。

- (ア) 集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。
- (イ) 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい。
- (ウ) 協働的な学びの実現が困難となる。
- (エ) 教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある。
- (オ) 切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい。

- (カ) 教員への依存心が強まる可能性がある。
- (キ) 進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある。
- (ク) 多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい。
- (ケ) 多様な活用の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい。

エ 望ましい学級数の考え方

適正規模・適正配置等手引においては、以上の課題等を踏まえ、望ましい学級数について次のように示しています。

(ア) 小学校

全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数教員を配置するためには1学年2学級以上（12学級以上）あることが望ましい。

(イ) 中学校

免許外指導をなくしたり、全ての授業で教科担任による学習指導を行ったりするためには、少なくとも9学級以上を確保することが望ましい。

(2) 統合の効果について

適正規模・適正配置等手引においては、過去の学校統合事例から、統合の効果について、おおむね次のようなものが報告されているとしています。

ア 児童生徒への直接的な効果

- (ア) 良い意味での競い合いが生まれた、向上心が高まった。
- (イ) 以前よりもたくましくなった、教師に対する依存心が減った。
- (ウ) 社会性やコミュニケーション能力が高まった。
- (エ) 切磋琢磨する環境の中で学力や学習意欲が向上した。
- (オ) 友人が増えた、男女比の偏りが少なくなった。
- (カ) 多様な意見に触れる機会が増えた。
- (キ) 異年齢交流が増えた、集団遊びが成立するようになった、休憩時間や放課後での外遊びが増えた。
- (ク) 学校が楽しいと答える子供が増えた。
- (ケ) 進学に伴うギャップが緩和された。
- (コ) 多様な進路が意識されるようになった。

イ 指導体制や指導方法、環境整備等に与えた効果

- (ア) 複式学級が解消された。
- (イ) クラス替えが可能になった。
- (ウ) より多くの教職員が多面的な観点で指導できるようになった。
- (エ) 校内研修が活性化し、教職員間で協力して指導にあたる意識や互いの良さを取り入れる意識が高まった。
- (オ) グループ学習や班活動が活性化し、授業で多様な意見を引き出せるようになった。
- (カ) 音楽、体育等における集団で行う教育活動、運動会や学芸会、クラブ活動、部活動などが充実した。
- (キ) 少人数指導や習熟度別指導などの多様な指導形態が可能になった。
- (ク) 一定の児童生徒数の確保により、特別支援学級が開設できた、特別支援教育の活動が充実した。
- (ケ) バランスの取れた教員配置が可能となった、免許外指導が解消又は減少した。
- (コ) 施設設備が改善され教育活動が展開しやすくなった、教育教具が量的に充実した。
- (サ) 校務の効率化が進んだ、教育予算の効果的活用が進んだ。
- (シ) 保護者同士の交流関係が広がった、PTA活動が活性化し、学校と地域との連携協働関係が強化された。

6 統合後の児童・保護者へのアンケート結果について

本市では、平成 27 年 4 月に長戸小学校を城ノ内小学校に、平成 29 年 4 月に北文間小学校を龍ヶ崎西小学校に統合しております。統合後に行ったアンケート結果は次のとおりとなっています。

(1) 長戸小学校の学校統合に関するアンケート【集計結果】

実施時期：平成 27 年 9 月

回答者：H26 年度に長戸小学校に在籍した児童 16 名（22 名中：73%）及びその保護者 11 名（16 名中：69%）※端数調整あり。

Q1. 学校が統合されたことについて、どのように思いますか

区分	よかった	どちらかとい えばよかった	どちらとも言 えない	どちらかとい えばよくなか った	よくなかっ た
児童	1	3	5	5	2
	6.3%	18.8%	31.2%	31.2%	12.5%
保護者	1	7	3	0	0
	9.1%	63.6%	27.3%	0.0%	0.0%

Q2. 以下のことについて、学校統合前と比べて、どのように思いますか。

児童からの回答

区分	そう思う	どちらかとい えばそう 思う	どちらとも 言えない・ わからない	どちらかとい えばそう 思わない	そう思わ ない
友達が増えた	10	5	1	0	0
	62.4%	31.3%	6.3%	0.0%	0.0%
クラスの数が増えたこと により、今までより勉強する気 が出てきた	3	4	3	2	4
	18.8%	25.0%	18.8%	12.4%	25.0%
学校の数が増えたことによ り、今までよりいろいろなこと を経験(スポーツやあそび) できている	7	2	3	2	2
	43.8%	12.5%	18.8%	12.4%	12.5%
運動会や遠足などの学校行 事が今までよりも楽しくなった	5	5	5	0	1
	31.3%	31.3%	31.3%	0.0%	6.3%
友達と仲良くなれるか心配だ ったが、すぐに友達になるこ とができた	7	5	4	0	0
	43.8%	31.2%	25.0%	0.0%	0.0%
放課後や保育ルームなどで 友達と遊ぶことが多くなった	5	2	3	1	5
	31.3%	12.4%	18.8%	6.2%	31.3%
長戸小学校に通えなくなって さびしい	11	3	1	0	1
	68.7%	18.7%	6.3%	0.0%	6.3%

保護者からの回答

区分	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらとも 言えない・ わからない	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わ ない
様々な個性を持つ多くの友達と触れ合っている	6	5	0	0	0
	54.5%	45.5%	0.0%	0.0%	0.0%
よい意味でも競争心が芽生え、子どもの学習意欲が高まった	2	3	4	1	1
	18.2%	27.3%	36.3%	9.1%	9.1%
クラスの規模が大きくなったことにより、社会性を身につける機会が増えている	1	7	2	0	1
	9.1%	63.6%	18.2%	0.0%	9.1%
学校規模が大きくなったことにより、様々な役割を経験できる	1	1	5	2	2
	9.1%	9.1%	45.5%	18.2%	18.2%
運動会や発表会などの学校行事において、子どもの活動の幅が広がった	1	0	3	2	5
	9.1%	0.0%	27.3%	18.2%	45.5%
子どもが学校になじめるか心配したが、すぐになじむことができた	4	6	0	1	0
	36.4%	54.5%	0.0%	9.1%	0.0%
学級やPTA組織などの役割分担が減り、保護者の負担が軽減された	5	1	5	0	0
	45.5%	9.0%	45.5%	0.0%	0.0%
友達が増えたことにより、子どもが活発になった気がする	2	4	4	0	1
	18.2%	36.4%	36.4%	0.0%	9.0%

スクールバス利用について

児童からの回答

区分	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらとも 言えない・ わからない	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わ ない
登下校が楽になった	7	3	2	1	3

	43.8%	18.7%	12.5%	6.3%	18.7%
交通事故の心配が少なくなった	3	4	6	0	3
	18.7%	25.0%	37.5%	0.0%	18.8%
運動不足になった	6	1	2	2	5
	37.5%	6.2%	12.5%	12.5%	31.3%

スクールバス利用について
保護者からの回答

区分	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらとも 言えない・ わからない	どちらかといえ ばそう思わない	そう思 わない
登下校の安全が確保されて いる	5	4	2	0	0
	45.4%	36.4%	18.2%	0.0%	0.0%
今までより規則正しい生活が できている	2	1	5	1	2
	18.2%	9.1%	45.4%	9.1%	18.2%
運動不足になっている	5	2	1	0	3
	45.4%	18.2%	9.1%	0.0%	27.3%

【アンケート結果から】

児童からの回答を見ると、統合したことについては、「よくなかった」と回答した児童が比較的多かったが、高学年の児童になるにつれて、「統合してよかった」と回答する傾向が見られた。

※ 回答のあった2年生(2名)は2名ともに「よくなかった」、3年生(4名)のうち3名が「どちらかといえばよくなかった」と回答している。また、「②クラスの人数が増えたことにより、今までより勉強をする気が出てきた」、「③学校の人数が増えたことにより、今までよりいろいろなことを経験(スポーツやあそび)できている」の回答においても、高学年の児童になるにつれて、「そう思う」と回答する傾向が見られた(その他の質問項目については、学年別で顕著な傾向は見られなかった)。

サンプル数が少ないため一概には言えないが、これらのアンケート結果から、クラスや学校の人数が増えたことにより、さまざまな個性を持った友達と関わることに違和感(これまでは規則正しい学校生活を送っていたため)を感じている低学年の児童と、中学生になることを視野に入れて、集団生活を前向きに捉えようとしている高学年の児童というように分けることもできるのではないかと。

保護者からの回答を見ると、統合したことについては、ほとんどの方が「よかった」と回答した。また、クラスや学校の人数が増えたことにより、友達が増えたり、学習意欲や社会性が高まったという回答も多く、子ども達が円滑に集団生活をしていることが伺える一方、運動会・発表会などの学校行事において活動の幅が狭まったという意見が多かった。他には、先生の目が届きにくくなったことや、スクールバスのバス停に対する不安が寄せられた。

Q3. 学校統合に対する感想や意見（自由回答）

児童からの回答

- ・友達が増えて、一緒に遊ぶ機会が増えた（1件）。
- ・ルールを守って欲しい（授業中におしゃべりをしない、ケンカをしないなど）（1件）。
- ・性格の悪い子がいて嫌だ（1件）。
- ・掃除の前に黙想する時間を決めて欲しい（1件）。
- ・旧長戸小でイベントを増やして欲しい（1件）。

保護者からの回答

- ・友達が増えてよかった（3件）。
- ・楽しく通っている（2件）。
- ・学習面では以前の方が積極的だった（2件）。
- ・心配するほどではなかった（1件）。
- ・中学校に入る不安が減った（1件）。
- ・長戸小のほうがよかった（1件）。
- ・教室がうるさい（1件）。
- ・先生の目が届きにくくなった（1件）。
- ・先生と保護者との距離を感じるようになった（1件）。
- ・図書館がせまい（1件）。
- ・以前はコミュニティセンターと学校とのつながりが強かったので、今後どう運営・活動するか考える必要がある（1件）。
- ・旧長戸小グラウンドを休日に自由に遊べるように整備して欲しい（1件）。
- ・行動範囲が広がり、子ども達だけで遊ばせることが不安（1件）。
- ・スクールバスが停車している間に後続車が渋滞するので、バス停に目印を設置して欲しい（1件）。
- ・スクールバスのバス停に行く際、車の通りが激しい横断歩道のない場所を子ども達だけで渡らせることが不安（1件）。

(2) 北文間小学校の学校統合に関するアンケート【集計結果】

実施時期：平成 29 年 9 月

回答者：H28 年度に北文間小学校に在籍した児童 25 名（44 名中：57%）及びその保護者 25 名

Q1. 学校が統合されたことについて、どのように思いますか

区分	よかった	どちらかといえばよかった	どちらとも言えない	どちらかといえばよくなかった	よくなかった
児童	7	7	8	2	1
	28.0%	28.0%	32.0%	8.0%	4.0%
保護者	4	9	8	3	1
	16.0%	36.0%	32.0%	12.0%	4.0%

Q2. 以下のことについて、学校統合前と比べて、どのように思いますか。

児童からの回答

区分	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらとも言えない・わからない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
友達が増えた	20	3	2	0	0
	80.0%	12.0%	8.0%	0.0%	0.0%
クラスの数が増えたことにより、今までより勉強する気が出てきた	1	8	9	1	6
	4.0%	32.0%	36.0%	4.0%	24.0%
学校の数が増えたことにより、今までよりいろいろなことを経験(スポーツやあそび)できている	11	10	3	1	0
	44.0%	40.0%	12.0%	4.0%	0.0%
運動会や遠足などの学校行事が今までよりも楽しくなった	5	11	6	2	1
	20.0%	44.0%	24.0%	8.0%	4.0%
友達と仲良くなれるか心配だったが、すぐに友達になることができた	14	2	3	1	0
	56.0%	8.0%	12.0%	4.0%	0.0%
	9	0	2	3	9

放課後や保育ルームなどで友達と遊ぶことが多くなった	36.0%	0.0%	8.0%	12.0%	36.0%
北文間小学校に通えなくなつてさびしい	17	3	1	1	1
	68.0%	12.0%	4.0%	4.0%	4.0%

保護者からの回答

区分	そう思う	どちらかといえはそう思う	どちらとも言えない・わからない	どちらかといえはそう思わない	そう思わない
様々な個性を持つ多くの友達と触れ合っている	13	8	3	1	0
	52.0%	32.0%	12.0%	4.0%	0.0%
よい意味でも競争心が芽生え、子どもの学習意欲が高まった	3	6	10	5	1
	12.0%	24.0%	40.0%	20.0%	4.0%
クラスの規模が大きくなったことにより、社会性を身につける機会が増えている	6	8	7	3	1
	24.0%	32.0%	28.0%	12.0%	4.0%
学校規模が大きくなったことにより、様々な役割を経験できる	7	6	7	3	2
	28.0%	24.0%	28.0%	12.0%	8.0%
運動会や発表会などの学校行事において、子どもの活動の幅が広がった	2	3	15	2	3
	8.0%	12.0%	60.0%	8.0%	12.0%
子どもが学校になじめるか心配したが、すぐになじむことができた	8	13	3	1	0
	32.0%	52.0%	12.0%	4.0%	0.0%
学級やPTA組織などの役割分担が減り、保護者の負担が軽減された	5	7	6	5	2
	20.0%	28.0%	24.0%	20.0%	8.0%
友達が増えたことにより、子どもが活発になった気がする	2	5	11	4	3
	8.0%	20.0%	44.0%	16.0%	12.0%

スクールバス利用について

児童からの回答

区分	そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらとも 言えない・ わからない	どちらかと いえばそう 思わない	そう思わ ない
登下校が楽になった	12	4	4	0	0
	48.0%	16.0%	16.0%	0.0%	0.0%
交通事故の心配が少なくなった	5	8	2	3	2
	20.0%	32.0%	8.0%	12.0%	8.0%
運動不足になった	6	4	5	0	5
	24.0%	16.0%	20.0%	0.0%	20.0%

保護者からの回答

区分	そう思う	どちらかと いえばそ う思う	どちらとも 言えない・ わからない	どちらかと いえばそう 思わない	そう思わ ない
登下校の安全が確保されている	6	11	5	1	1
	24.0%	44.0%	20.0%	4.0%	4.0%
今までより規則正しい生活が できている	4	5	11	2	2
	16.0%	20.0%	44.0%	8.0%	8.0%
運動不足になっている	6	2	7	3	6
	24.0%	8.0%	28.0%	12.0%	24.0%

【アンケート結果から】

児童からの回答を見ると、概ね「統合してよかった」と回答した児童が多く、各学年ともに同様の傾向が見られた。

保護者からの回答についても、ほぼ同様の結果であり、「統合してよかった」と回答した保護者が多かった。

※長戸小学校に在籍した児童に対し、統合後同時期(平成27年9月)にアンケートを実施した際には、「統合はよくなかった」と回答する児童の方が多かった(特に低学年の児童にその傾向が強かった)。

各質問項目に対する回答を見ると、長戸小学校と城ノ内小学校との統合時におけるアンケート結果と、ほぼ同様な傾向であり、児童は北文間小学校が閉校したことをさびしく思いながらも、新しい学校生活を前向きに過ごしている様子が見られる。

かがえた。

その中でも、②「クラスの人数が増えたことにより、今までより勉強する気が出てきた」、及び⑥「放課後や保育ルームなどで友達と遊ぶことが多くなった」の質問項目では、「そう思わない」と回答する児童が多かった。しかし、他の質問項目において、すぐに多くの友達ができたと様子や、学校生活においてさまざまな経験ができている様子がうかがえることから、主な要因としては、学年の進行に伴うものが大きいのではないかと思われる。

保護者からの回答を見ても、子どもたちが新しい学校生活を前向きに過ごしている様子がうかがえる。また、北文間小学校の教員の多くが、現在、龍ヶ崎西小学校に勤務している状況を非常に好意的に受け止められている様子がわかった。スクールバスについては、児童の運動不足を懸念する保護者が多かった。

Q3. 学校統合に対する感想や意見（自由回答）

児童からの回答

- ・友達が増えて、一緒に遊ぶ機会が増えた（3件）。
- ・北文間小学校に通えなくてさびしい（3件）。
- ・学力が低下したので勉強したい（1件）。

保護者からの回答

- ・スクールバスで登下校するようになり、運動不足になった（3件）。
- ・北文間小学校の先生がたくさん龍ヶ崎西小学校に来てくれて安心（2件）。
- ・北文間小学校にも小規模校の良さがあった（2件）。
- ・中学生になる前にさまざまな体験ができるようになった（2件）。
- ・統合までの進め方に不満（2件）。
- ・龍ヶ崎西小学校に通うようになってから学力が落ちた（1件）。
- ・飯塚古登さんのお墓参りがなくなったのが残念（1件）。

7 通学区域の状況について

本市の小中学校の通学区域については、龍ヶ崎市学齢児童生徒の就学すべき学校指定に関する規則（昭和41年龍ヶ崎市教育委員会規則第16号）に定められており、大宮小学校の通学区域については、次のとおりとなっています。

(1) 通学区域

第4条 令第5条第2項(第6条において準用する場合を含む。)の規定による就学すべき学校の指定は、前条の規定により教育委員会の認定した現住所に基づき、小学校にあつては別表第1、中学校にあつては別表第2の通学区域の区分により行う。

別表第1(第4条関係)

小学校	区域(町名及び通称)
大宮	大徳町 宮淵町 佐沼町 上大徳新町

(2) 通学距離

大宮小学校の通学区域において、徒歩による通学が一番長い地区は、宮淵地区（満願寺近辺）で、その距離は1.8km（図1参照）となっています。また、通学距離が学校から最も遠い地区は、北河原地区で、その距離は3.3km（図2参照）となっています。集団登校ができない区間が長いため、登校に関しては、集合場所まで保護者が自家用車で送迎し、集合場所から集団登校しています。下校は保護者による自家用車での送迎となっています。

なお、龍ヶ崎小学校と統合した場合、学校から最も遠い地区は、北河原地区で、その距離は6.1km（図3参照）となります。この場合、徒歩での通学時間は1時間以上を要することが見込まれることから、児童のより安全な通学のためにスクールバスの運行を検討する必要があります。

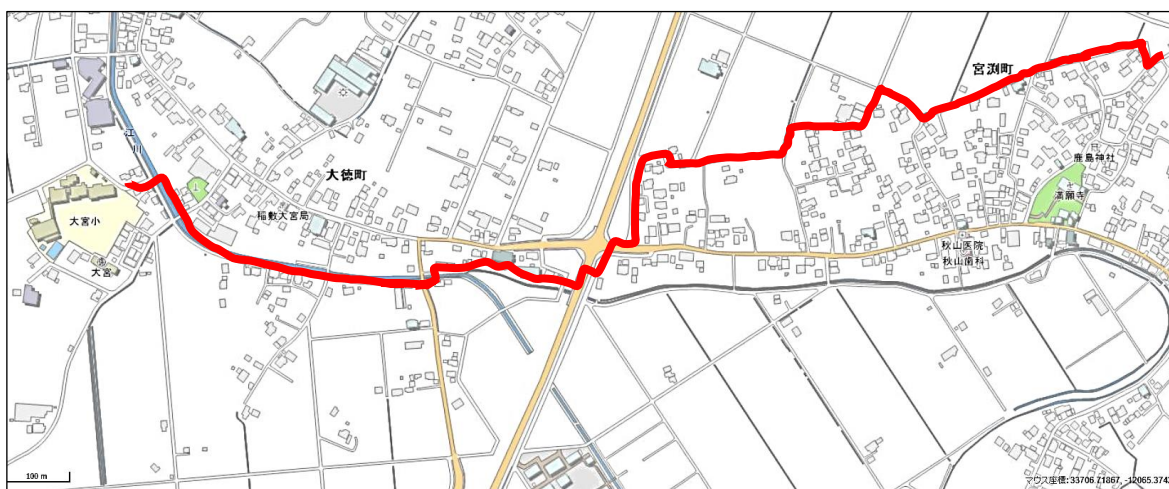


図1 赤線：宮淵町（満願寺近辺）から大宮小学校への通学路（1.8km）



図2 赤線：北河原地区から大宮小学校への通学路（3.3km）
登校：自宅から集合場所（徳永商店付近）までは、保護者が自家用車で送り、その後、集団登校（徒歩）
下校：学校から自宅まで保護者が車で送迎



図3 赤線：北河原地区から龍ヶ崎小学校への通学路（6.1km）

8 教職員の配置基準について

(1) 教職員の配置基準

公立小中学校における教職員の配置基準については、公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律（昭和 33 年法律第 116 号）において定められており、学級数に応じた掛け率を乗じて教職員数を算定することとなっています。

同基準により教職員数を算定すると次のとおりとなります。

○小学校

(単位：人)

学級数	校長	教頭	教諭			教員計	養護教諭	事務職員	合計
			学級担任	担任外	小計				
2 学級	1	—	2	—	2	3.00	—	—	3.00
3 学級	1	—	3	0.75	3.75	4.75	1	0.75	6.50
5 学級	1	—	5	1	6	7.00	1	1	9.00
6 学級	1	0.75	6	1	7	8.75	1	1	10.75
12 学級	1	1	12	1.5	13.5	15.50	1	1	17.50

(2) 大宮小学校の教職員配置

大宮小学校の教職員配置は、校長 1、教頭 1、教務主任 1、学級担任 9（特別支援学級担任 3 を含む）、小学校専科教諭（社会）0.5、養護教諭 1、事務職員 1 合計 14.5 人となっている。（令和 5 年 5 月 1 日現在）

(単位：人)

学級数 (学級種)等	校長	教頭	教諭			教員計	養護教諭	事務職員	合計
			学級担任	担任外	小計				
6 学級 (通常)	1	1	6	1	10.5	12.5	1	1	14.5
1 学級 (知的)			1						
2 学級 (自・情)			2						
加配									

※特別支援学級（知的学級、自閉症・情緒学級）については、在籍児童により、変動あり。 ※加配は、小学校専科教諭（社会）で週 11 時間

(3) 龍ヶ崎小学校と統合した場合の教職員の配置

大宮小学校が龍ヶ崎小学校と統合した場合、各学年における通常の学級数は2学級と見込まれていることから、教職員配置は、校長1、教頭1、教務主任1、学級担任12（特別支援学級除く）、加配教職員（小学校専科教諭1、通級指導1、日本語指導1、）養護教諭1、事務職員1、合計20（特別支援学級除く）人となることを見込まれます。

（単位：人）

学級数 （学級 種）等	校長	教頭	教諭			教員計	養護教諭	事務職員	合計		
			学級担任	担任外	小計						
12学級 （通常）	1	1	12	1	16	18	1	1	20		
○学級 （知的）			○							+○	+○
△学級 （自・情）			△							+△	+△
加配				3							

※あくまでも標準的なモデル配置であり、実際の教職員配置は学校の事情により異なります。

9 学校施設の現状について

(1) 大宮小学校

大宮小学校の現在の校舎は、平成11年度に建築され、築23年を経過しています。体育館については、昭和53年度に建築され、築44年を経過しています。

この間、大規模な改修工事としては、平成10年度に耐震改修工事に合わせて体育館の屋根・外壁改修工事、平成25年度に普通教室へのエアコン設置工事、平成27年度に体育館の非構造部材耐震改修工事、平成29年度に校舎の屋上防水工事（一部）、平成31年度に特別教室へのエアコン設置工事及び外壁塗装工事（一部）を実施しています。

令和5年度における教室の利用状況は、次の表のとおりとなっています。

普通教室	特別教室関係											倉庫
	理科	音楽	美術	技術・図工	家庭	視聴覚	コンピュータ室	図書室	特別活動	教育相談	資料・進路指導室	
9	1	1		1	1	1		1	5		1	4

※普通教室は、通常の学級 6 学級と特別支援学級 3 学級が使用

(2) 龍ヶ崎小学校

龍ヶ崎小学校の現在の校舎は、平成元年度に建築され、築 34 年を経過しています。体育館については、昭和 55 年度に建築され、築 42 年を経過しています。

この間、大規模な改修工事としては、平成 12 年度に耐震改修工事に合わせて体育館の屋根・外壁改修工事、平成 25 年度に普通教室へのエアコン設置工事、平成 27 年度に体育館の非構造部材耐震改修工事、平成 30 年度に校舎の屋上防水工事（一部）及び外壁塗装工事（一部）、平成 31 年度に特別教室へのエアコン設置工事を実施しています。

令和 5 年度における教室の利用状況は、次の表のとおりとなっていますが、以前は普通教室であった教室を特別教室や倉庫として転用していることから、大宮小学校が龍ヶ崎小学校に統合となったとしても、普通教室及び特別教室は、十分に確保できる見込みです。

普通教室	特別教室関係											倉庫
	理科	音楽	美術	技術・図工	家庭	視聴覚	コンピュータ室	図書室	特別活動	教育相談	資料・進路指導室	
16	2	2		2	1	1	1	1	5	3	1	4

※普通教室は、通常の学級 12 学級と特別支援学級 4 学級が使用

10 学校跡地利用の可能性について

大宮小学校が統合した場合の学校跡地については、当該学校跡地が都市計画法に規定する市街化区域又は市街化調整区域のいずれに位置するかによって、その跡地利用の可能性が異なります。

大宮小学校は、市街化調整区域に位置しており、都市計画法において、市街化調整区域は、「市街化を抑制すべき区域」と定められております。

このため、統合後の大宮小学校の跡地利用については、公共施設や福祉施設などの用途に限定され、民間事業者による跡地利用の可能性は低いと考えられます。

11 大宮小学校の統合に向けた検討に係るヒアリングについて

大宮小学校の統合に向けた検討を行うに当たり、現状や課題等について把握するため、学校に係るPTA及び地域団体の方々にヒアリングを行い、統合に関する意見を伺いました。

ヒアリングの実施団体及び主な意見の内容は、次のとおりです。

(1) ヒアリング実施団体

区分	団体名・対象者等	実施日
保護者	大宮小PTA役員（本部役員、運営委員）	令和5年5月12日 令和5年6月8日※1
	大宮小在校生の保護者及び令和6、7年に入学を迎える新入生の保護者	令和5年6月30日 ※授業参観日
地域団体	大宮ふるさと協議会、大宮コミュニティセンター（各代表）	令和5年4月14日
	大宮ふるさと協議会（代表者、副代表者）、大宮コミュニティセンター、大宮子ども会育成会	令和5年6月8日※1
	大宮区長会（各区長）	令和5年7月16日
小学校	大宮小学校（校長、教頭）	令和5年4月28日
	大宮小学校（校長、教頭、教務主任）	令和5年6月8日※1

※1は、PTA役員・地域団体代表・学校代表との意見交換会

(2) 主な意見

区分	主な意見
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・世帯数や子どもの人数が減っているという現状があるので、今後の小さい子たちのことを考えると、早急に統合してもらいたい。 ・（大宮地区は）地域の方の見守りとか、地域と学校が一緒にやる

	<p>運動会とか、良い面も非常に多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これだけしか子どもがいないので、学校で友達と仲が悪くなったり、いじめられたりという場合に転校しか方法がなく、ほかに逃げ場がないということが苦しい。 ・スポーツ一番、学習一番という感じで関係性が固定化されて、うまく周囲から評価されない。クラス替えがあれば、そのタイミングで自分を評価してくれる友達が現れたり、自分と同じような特性の子が現れたりして、その子の可能性が急に開花することも多々ある。 ・(中学校進学の際) 多くの地域から子どもが集まったときに人間関係をうまく構築できず戸惑った経験がある。多い人数のなかで揉まれた方が、良い意味で、人間関係でトラブルが起きた際の身の処し方が子どもに身につく。 ・令和11年の新入生が男子児童0人、女子児童7人という数字をみたときに、もう先はないのかなと思った。 ・早めに統合して、大人数の中で楽しくやってくれればいいと思う。 ・PTA 役員としては、全速力で統合の話を進めてほしい。 ・(教育委員会は) 統合ありきではなく、保護者の意見を聴きたいということで意見交換会を実施してくれた。 ・大宮地区は家族・地域の連帯が強い。統合によって学校と地域との関係が疎遠になることへの懸念については、学校行事への招待などを提案してくれた。 ・統合によって通学路が長くなることについて心配していたが、スクールバスの運行の話を知ることができて安心した。 ・子どもの順応力は大人以上。愛宕中・城南中の統合のとき、説明会で一部の保護者からは強い反対意見も出た。しかし、統合後、反対意見のなかで危惧されていたような事態はほとんど起こらなかった。 ・児童数が少なく、登校班が組めないなど安全面で不安だ。 ・今後集団登校ができなくなる。 ・大宮小学校のように1人の先生が10人の児童を見守っているのは稀であり、ある程度の人数の環境に馴れておく必要がある。 ・世帯数が少なくて PTA 役員を決めるのが大変、現在は PTA 会長を置いていない。
--	---

地域団体	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度に統合という話は、心構えがなかった。あと2年かということなのでかなり動揺している。 ・長山中学校区と（統合の）時期を同じくして、令和9年度まで統合を待てないか。 ・私が卒業した55年前は、6年生が70人だった。今は全校生徒が70人ということで、少子化が進展していると感じる。 ・統合については何ら問題ない。子どもたちに動揺がないようにしてもらいたい。 ・私は、大宮小学校卒業後、当時の大宮中学校に1年通った。統合されて、2、3年生のときは城南中学校に通った。生徒同士はすぐ仲良くなって、そんなに問題はなかった。 ・子どもにとって一番よい形にしてほしい。ただ、コミュニティ活動で大宮小の体育館や運動場をよく利用する。月に1、2回は利用しているので、今後利用できなくなることを心配している。また、登下校の見守りボランティアの方々が、大宮小がなくなったら寂しくなるとは言っている。 ・跡地利用については市の考えはあるのか。 ・現在のコミュニティセンターは行き止まりにある。避難所になった場合、道路に抜けられなくて、防災面で非常に困る。また大宮地区は都市公園や防災公園がないので、跡地をうまく活用してもらいたい。
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が何人になっても、児童にとってよりよい学校運営に全力で取り組みたい。 ・大宮小学校は、地域との関りが深く、保護者をはじめ地域の方が学校の活動を理解し、支えてくれる。 ・児童数が減ってきており、制限される活動があることは事実だが、縦割り班活動などで対応している。 ・教職員数が少ないため、学校運営に課題が生じる場合がある。

12 大宮小学校の統合について

前項までに整理した内容を基に、大宮小学校の統合に関する基本的な方針を以下のとおりとします。

- ・ **龍ヶ崎小学校と統合する（大宮地区の児童が、龍ヶ崎小学校に通う）。**

2 ページの図表で示したとおり、大宮小学校の通常の学級数は6学級であり、龍ヶ崎市教育委員会の定める理想的な小学校の規模（各学年2学級計12学級以上）でない状況となっており、今後も児童数が減少する見込みです。

3 ページの図表のとおり、大宮小学校が龍ヶ崎小学校と統合した場合、通常の学級数が、各学年2学級、合計12学級になることが見込まれ、理想的な小学校の規模となる見込みです。

統合により、児童同士が切磋琢磨する環境が整備され、多様な意見に触れる機会が増えること等が期待できるなど、学校における教育活動を行っていく上では、大きなメリットがあるものと考えます。

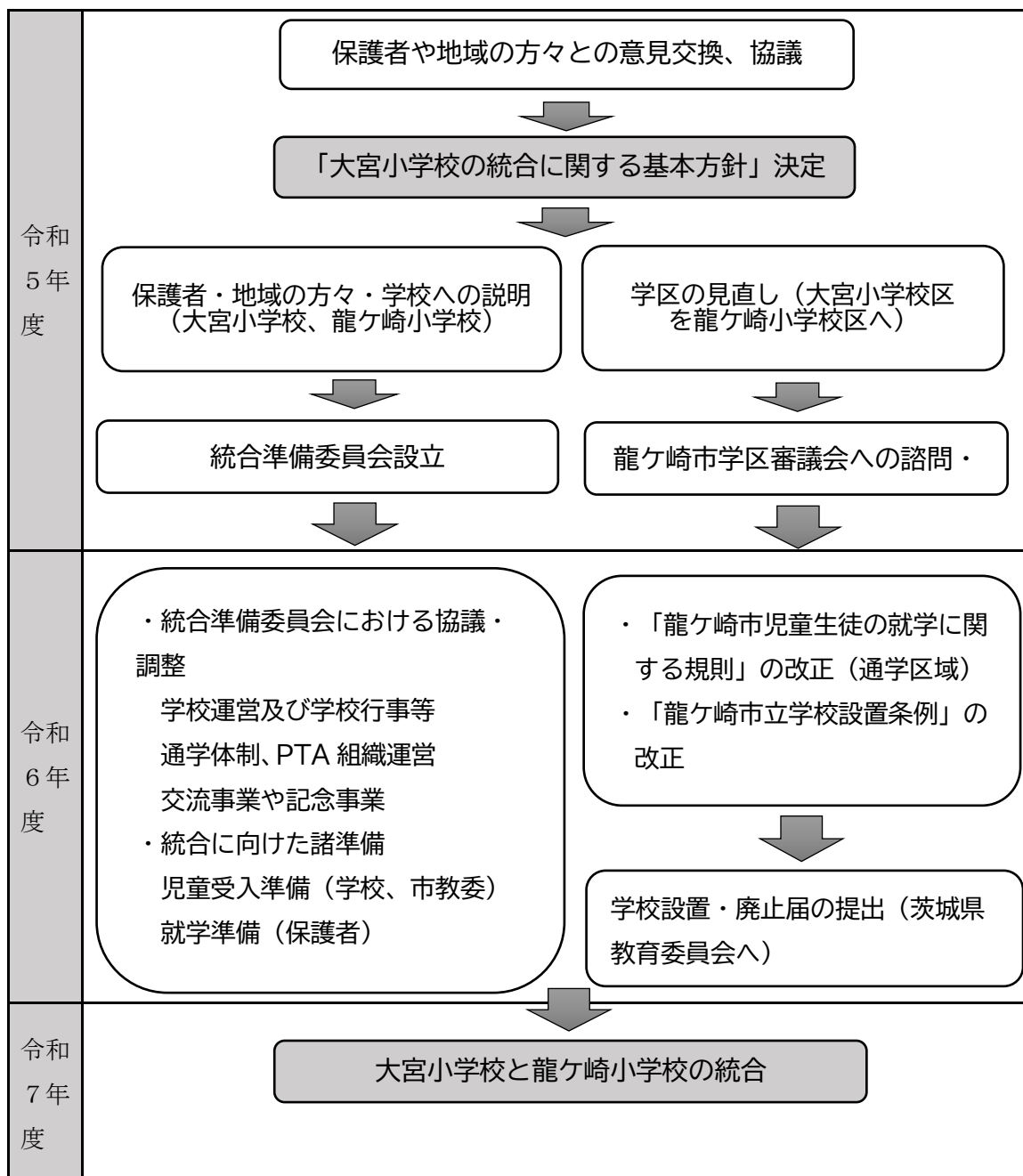
- ・ **統合の時期は、令和7年4月1日を目標とする。**

現在の大宮小学校では、学年によっては、男女比に大きな偏りがあることや一部の児童は、すでに集団登校ができないなど、小規模校の課題が見られることから、できる限り早期の統合が望ましいと考えます。

また、保護者からの「これから入学する子どもたちのことを考えると早急に統合してほしい。」、「1学年に1学級しかなく、仲が悪くなった場合逃げ場がない。」、「スポーツ一番、学習一番など評価が固定される。」、「子どもは、多い人数のなかで揉まれた方が、身の処し方が身につく。」等の切実な願いや意見を受け、これらの課題を早急に解決するため、最も早い時期での統合を目指します。

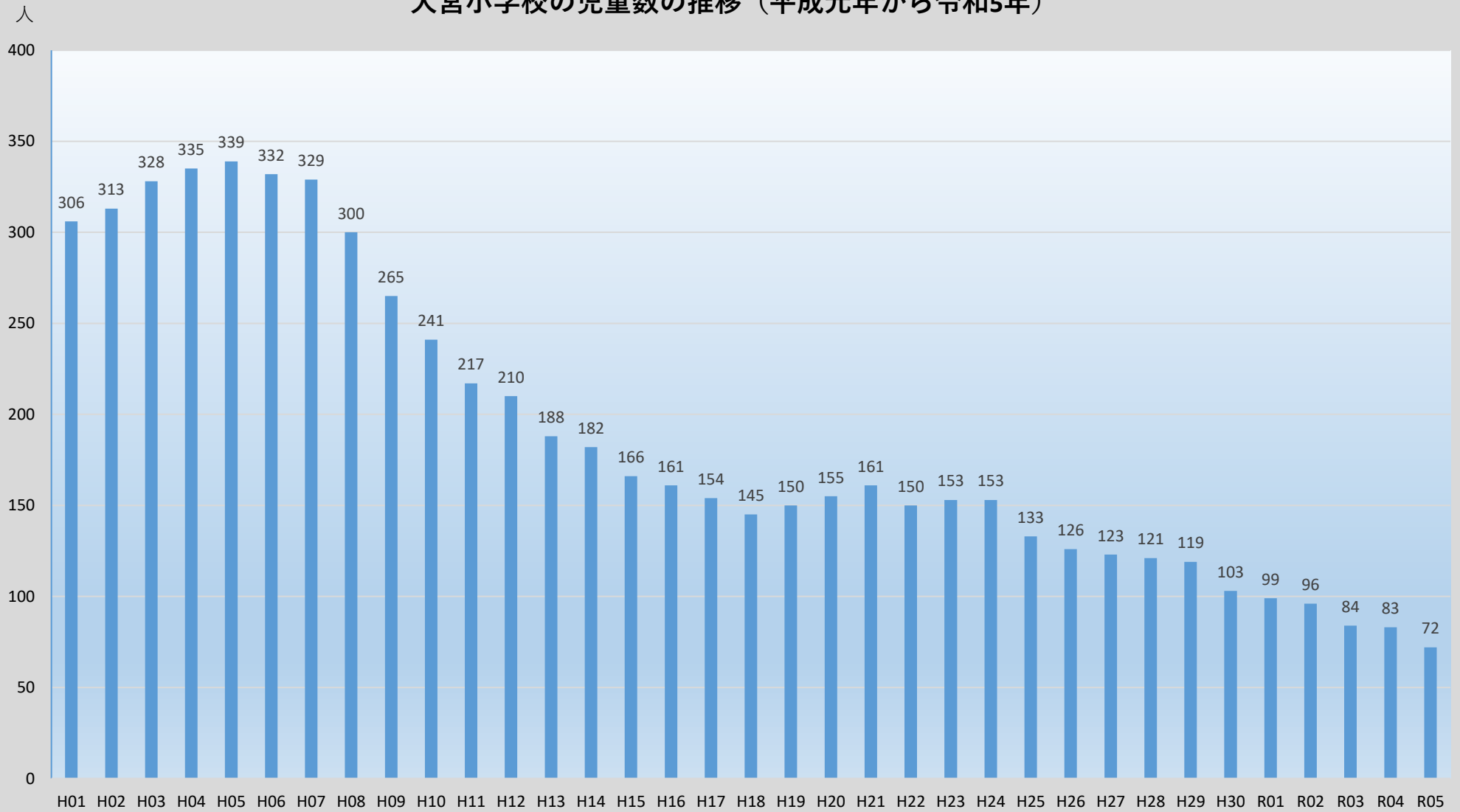
13 統合に向けたスケジュール

令和7年4月1日の大宮小学校と龍ヶ崎小学校の統合に向けて、現時点で想定するスケジュールを以下に示しています。両校の統合に向けては、保護者、地域の方々、学校と十分に話し合いながら準備を進めることとします。



資料1

大宮小学校の児童数の推移（平成元年から令和5年）



資料 2

2023. 6. 30（金）大宮小学校児童の保護者との意見交換会 ご意見・ご質問

・大宮地区の児童が龍ヶ崎小学校に行くことになった場合、スクールバスでの通学になると思うが、児童の乗車場所や通学時間はどうなるのか想定しているのか。また、帰りも同様か。

・私は上大徳新町に住んでいる。統合先の龍ヶ崎小学校まで多少距離はあるが、宮渕や北河原ほどではない。自転車で通学させることは可能か。

・私の家の近所で、小さい子どもたちがいる。統合にせよ存続にせよ、子どもたちのためにいろいろ検討してもらいたい。

・令和7年4月の統合を目標としているとあるが、龍ヶ崎小学校の児童との事前交流があれば、統合後に滞りなく友達になれるのかなと思う。子どもたちの負担を少しでも取り除くという観点から、交流事業を検討してもらいたい。

また、運動会や授業参観など保護者が参加する行事を行う際の駐車場が確保できるのか。それらの点をしっかり考えて統合の話を進めてもらいたい。

・統合が決定したら、前倒しで統合先の学校に入学することは可能なのか。

・上の子が大宮小学校に通学しているが、下の子が来年小学校に入学する。仮に下の子を統合前に龍ヶ崎小学校に入学させた場合、授業参観などの行事が両校でかぶることはないのか。

・大宮小学校と龍ヶ崎小学校で運動会はかぶらないようにできるか。

・統合した場合、校名は龍ヶ崎小学校になるのか。校歌は龍ヶ崎小学校の校歌を歌うことになるのか。

・龍ヶ崎中学校にいつか統合することになるか。

・令和7年4月に統合という流れなのか。

P T A役員との意見交換会の際、仮に統合された場合に大宮小学校の在校生にジャージを1着ずつ配布することも考えていると聞いているが、間違いないか。

資料3

2023.7.16（日）大宮地区区長会との意見交換会 ご意見・ご質問

- ・龍ヶ崎小学校への通学はどのような方法になるのか。
スクールバスによって登下校の安全は確保できるということでしょうか。また、下校時間は学年によって異なるが、スクールバスの運行に当たって考慮してくれるか。具体的な集合場所などは決まっているのか。
- ・今後、地域での全体的な説明は予定しているか。
- ・大宮小学校が閉校するのは寂しいが、全校生徒が72人では、学校の存続は望めないと思う。
- ・大宮小学校の質の高い教育が、統合先でも存続するよう、教育委員会にお願いしたい。
- ・令和7年4月の統合を目標とするとあるが、これは決定事項という認識でしょうか。統合まで2年もないのに、「まだ目標であって、決定していない」という言い方はいかがなものか。
- ・地域の人間としては、大宮小学校の跡地利用がどうなるのかに関心がある。
- ・子どもを中心に考えてもらいたい。跡地利用などはその後でよい。

資料 4-1

2023. 8. 19 (土) 住民説明会

ご意見・ご質問

- ・ 龍ヶ崎小学校への通学はどのような方法になるのか。
- ・ 上大徳地区等の龍ヶ崎小学校に比較的近い地区は徒歩通学になるのか。
- ・ 大宮小学校 100 周年記念時に埋めたタイムカプセルを 150 周年記念の令和 7 年に掘り起こす計画があるが考慮していただきたい。
- ・ 北文間小や長戸小のように閉校記念誌を作っていただけか。作った場合は全戸配布をお願いしたい。
- ・ 原則全員がスクールバスで通学とあったが、徒歩通学を希望する児童はどうするのか。
- ・ 統合して龍ヶ崎小学校に行くようになったら、ジャージ等を配布してほしい。
- ・ 統合はいつ頃正式に決定するのか。
- ・ 大宮小学校の跡地利用については、地域の住民と連絡を密にとっていただきたい。
- ・ 跡地を避難場所として利用できるような施設にしてほしい。
- ・ 大宮小学校跡地はコミュニティセンターとして、使えるようにしていただきたい。スムーズな協議をお願いしたい。現時点でも、コミュニティセンターの行事の一環として、体育館や校庭を使用しているので令和 7 年度以降も使えないと困る。
- ・ 城南中の跡地については、どのように活用されるか地域住民に情報が伝わっていないため、大宮小の跡地もどうなるか不安。
- ・ 統合が確定した時点から、跡地利用についてすばやく検討していただきたい。

資料 4-2

2023.8.26 (土) 住民説明会
ご意見・ご質問

- ・統合した後の大宮小学校の跡地の管理についてはどうなるのか。放置され雑草が繁茂し、見通しが悪くなったり害虫発生が心配。
- ・統合前に龍ヶ崎小学校と大宮小学校の児童の交流事業を行ってほしい。
- ・交流事業については、コロナが収束していないので十分注意して行っていただきたい。
- ・統合後、大宮小学校の跡地の維持管理についてはどうなるか。
- ・以前、大宮小学校のプールにカエルや蚊などが大量に発生した。生活環境上の観点からも管理を徹底していただきたい。
- ・大宮小学校の教員も一緒に龍ヶ崎小学校へ異動となるのか。
- ・令和7年4月1日に統合するという認識でよいか。
- ・スクールバスは2台を予定しているとのことだが、増便する可能性はあるか。
- ・大宮地区は道が細いので大きなバスは通れないのではないか。